

函館ソーシャルクリニック

①西部地区における古民家を拠点とした地域活性化プロジェクト

北海道教育大学函館校
講師 有井晴香

前期(4月～7月)実施の地域プロジェクトI「西部地区における古民家を拠点とした地域活性化プロジェクト」から問題意識と活動内容をより具体的に絞り込み、後期(10月～1月)に実施した地域プロジェクトIIでは「弁天町における小学生を対象とした地域活性化プロジェクト」と改称して、地域活性化に向けた取り組みをおこなった。2021年度のプロジェクトメンバーは8名である。

本プロジェクトの背景として、函館市西部地区の少子高齢化および長期的に使用されず放置された「空き家」が増加していることがある。2019年より、本学学生を中心として西部地区における元・空き家をシェアハウスとして活用し、さまざまな活動を展開する「函館『荘』プロジェクト」が始動した。そこで、本プロジェクトでは「荘」に居住する学生をティーチング・アシスタントとして迎え、シェアハウスのひとつ「わらじ荘」が位置する弁天町の町会や函館市役所とも連携しながら活動を展開した。

前期活動においては、地域の実態とニーズを知るべく、弁天町会で実施されていた定期イベントへの参加や弁天町内の散策や町民に対する聞き取りなどをおこなった。その結果、子どもが楽しめる企画や子どもと大人が交流できるような場を形成することが必要とされていることが明らかとなった。これを踏まえ、後期活動においては、プロジェクトメンバーが2班に分かれ、弥生小学校および弁天町会において小学生との交流活動をおこなった。弥生小学校への訪問は11月～12月にかけて合計8回おこない、授業補助や休

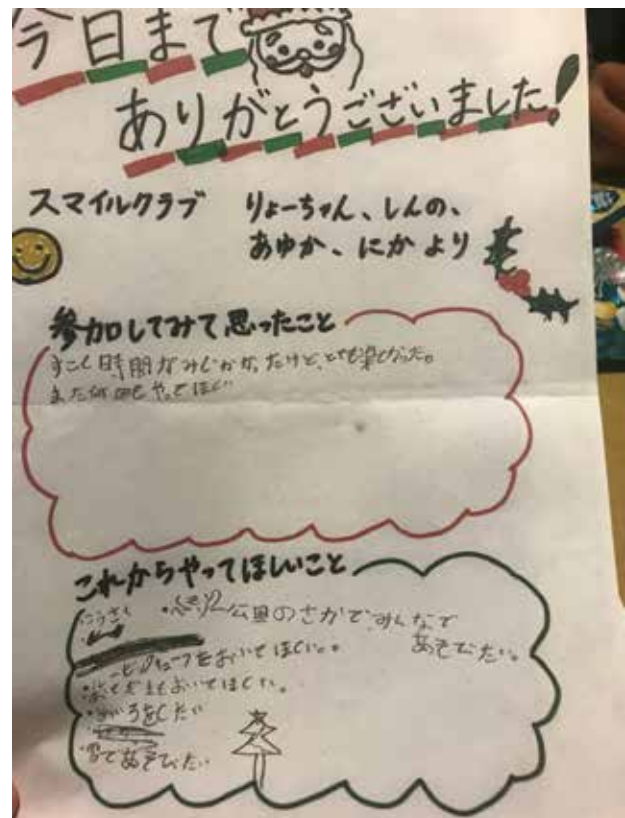
み時間における交流をおこなった。弁天町会においては、「すまいるクラブ」と題した放課後の子どもたちの遊びの場を提供する活動に参加し、合計4回実施した。

さらに、2021年12月19日、弁天町会館において地域の子どもたちが交流できるイベントとしてクリスマス会を企画・実施した。小学校における活動を通して子どもたちとともに作成したオリジナルかるたを楽しんだ。また、弁天町を舞台として宝探しをおこない、見つけた宝物(素材)をもとにクリスマスリースを作成するワークショップを実施した。なお、この取り組みは、2021年12月21日付『函館新聞』にて紹介された。(75ページに掲載)



大学生と小学生が協働して
作成したオリジナルかるた

イベントに参加した子どもたちからは「とてもたのしかった」「また何回もやってほしい」といった声が寄せられた。また、弁天町会や弥生小学校からは「子どもたちと大学生が交流できる場があることはとても貴重」との評価を受けた。こうした活動は継続していくこと、定着させていくことが重要と考えられる。来年度以降も継続して実施していくことを考えている。



「すまいるクラブ」参加者アンケート